討議資料

神奈川県議会議員

永田まりな

MARINA NAGATA

鎌倉人 VOL.54

65歳以上インフルエンザ予防接種無償へ！（第3回定例会報告）

令和2年第3回定例会は、9/7（月）から12/17（木）まで開会しています。
今定例会には史上最高額となる1,800億円超の補正予算が計上されました。新型コロナウイルス感染症の拡大等先行きは不透明ですが、県民の生命・雇用・事業と生活を守り抜くため、医療提供体制の維持や県内経済の着実な回復に向けた施策などを盛り込んだ補正予算です。

また来年度、神奈川県は現段階で概ね1,100億円の財源不足が見込まれていることも伝えられました。今後の感染状況などによっては、更なる税収減や追加の財政需要が見込まれ、財政は大変厳しい状況です。そのため、史上最高額となるこの補正予算編成は極めて重要であり、加えて施策のスクラップアンドビルドの更なる徹底を図るなど、慎重審議がいつも以上に求められる定例会となっています。

そして9/24には、高齢者などがインフルエンザの予防接種を無料で受けられるよう「インフルエンザ予防接種事業費補助」およそ37億円が追加で上程され即日審議の上、可決されました。新型コロナウイルス感染が終息しない中、今後流行期を迎えるインフルエンザの予防接種を促進し、発症数・重症化数を抑制することで医療提供体制の維持を図ります。予防接種法に基づく定期予防接種の対象者（主に65歳以上の方）に1人当たり2,300円を補助し、既に市町村が行っている費用の一部補助に上乗せする形で無償化を実現するものです。

この後は、所属する産業労働常任委員会、そして予算委員会においてそれぞれ質問に立ちます。
県民生活の安心安全に資する施策推進のため、提言・質疑をしてまいります。

地元かながわ再発見（県民割）が始まっています！

旅行にお出かけになる前には
特設サイトからこちらもチェック！

予約受付 令和2年 **10月1日 12時以降順次予約受付開始**

※10月1日以降予約が成立したかながわ県民割対象の商品に対し適用となります。

実施期間 令和2年 **10月8日** ▶ 令和3年 **2月28日**までの **宿泊迄利用分**
（3月1日チェックアウト）

県では、新型コロナウイルス感染症の拡大により深刻な影響を受けた観光事業者を支援するとともに、県民の皆様が地元・神奈川県の魅力を再発見する契機とするため、県内旅行の割引を行うキャンペーンを実施します。

対象は神奈川県民のみで、かながわの魅力を再発見しようという観点から、定番エリア（横浜、鎌倉、箱根）と、再発見エリア（横浜、鎌倉‘箱根以外）に区分し、それぞれ割引金額が異なります。

申し込みや予約は、この事業に登録した事業者（旅行サイト）から。県のHPでも特設サイトを設けていますので、キャンペーンの詳細、事業者の検索などはそちらを随時チェックして下さい。

プラン内容	1人1泊あたり割引前の販売価格	割引額	
		定番エリア（横浜・鎌倉・箱根）	再発見エリア（横浜・鎌倉・箱根以外）
宿泊商品	5,000円～9,999円	1,000円	2,500円
	10,000円～14,999円	2,500円	5,000円
	15,000円以上	5,000円	7,500円
プラン内容	1人・1券面あたり割引前の販売価格	割引額	
		定番エリア（横浜・鎌倉・箱根）	再発見エリア（横浜・鎌倉・箱根以外）
日帰り旅行／鉄道・観光船企画切符等	3,000円～4,999円	1,000円	1,500円
	5,000円～6,999円	1,500円	2,500円
	7,000円～9,999円	2,000円	3,500円
	10,000円以上	3,000円	5,000円

かながわ県民割

＊期間中は何度でも利用できます。予算に達し次第終了となります
＊GoToトラベルとの併用可能

当事業は反響が大きく、本紙配布時には既に販売終了している可能性があります。最新情報をご確認いただきますようお願いいたします。
今後は当事業の予算増額について提言してまいります。また、感染症対策を徹底したとしても、観光地や商店、飲食店によっては「密」になってしまう場合があります。新型コロナウィルス感染症は終息していませんので、十分に対策を取りお出かけ頂きたいと思います。

インターン生からの報告

今夏も大学生インターンを受け入れ、活動を共にしました。県政報告会に参加した後に　「言葉が難しく理解できない箇所がたくさんあった」と率直な感想を聞き、いつの間にか政治に詳しい人にだけ伝わるような話し方をしていたことに気づかされましたし、「若い人に政治に関心をもってもらいたい」という自分の信条を省みる良いきかっけとなりました。

早朝より駅頭を共に

ビーチクリーンの活動にも

県民の皆様と意見を交わし、県政に活かしていくためには、まず伝えること・意見を交わすこと・基本に立ち返ること。改めてこれらをしっかり肝に据え県政に邁進してまいります。

また、永田まりな事務所はインターンを随時受け入れております。ご興味のある１８歳以上の方は下記連絡先までお問い合わせ下さい。

活動は？　朝の駅頭、市のオンラインイベントや市内会議などに参加させていただきました。

感想は？　朝の駅頭でチラシを渡していると思ったことが、サラリーマンの男性はよくもらってくださいますが、若い人や女性はもらってくださる方もいましたが、少なかったと感じました。正直、私もインターンをするまで政治のことは知らないことだらけでした。しかし、活動を通して思ったことは「もっと若い人たちや女性にこそ興味を持ってほしい！」ということ。同時に「そのためにはどういうアプローチが有効なのか？」と考えました。

感じたことを何か行動に移した？　今回、インターンシップの一環として未来国会に参加し、社会の問題を見つけ改善のための政策を作成、発表を行いました。私たちが目指すテーマとして選んだのは「地域全体での子育て」「父・母・子供にやさしい日本」です。母親が一人で子育てを担いがちな現状を改善し、周りの人に頼りやすい環境を目指します。結果母親の負担が軽減されるのはもちろん、子どもも幼いころから多くの人との繋がりを持つことができ、社会性が育まれるのではないかと考えました。考えた政策の一つに「父親の育休取得推進」というものがあります。父親の育休は最近話題にはなっているものの、実際は十分に取得している人は少ないのではないかと考えたためです。そこで、十分な育休取得が「当たり前」という考え方を拡散、定着させるためにこの政策を提案しました。私たちが提案をした経緯としては、まだまだ子育ては母親任せの人が多いのではないか、と考えたからです。
しかし、先日朝、駅でスーツ姿の男性が赤ちゃんをおんぶして歩いている姿を見かけました。その姿を見て私は自分が恥ずかしくなりました。新しい考えを広げると言いながら、子育ては母親がしているという固定概念に縛られていたのは私たちの方ではないかと感じたからです。精一杯協力している父親の方々、すみませんでした。
この体験で、世の中を多岐の方向から見ることの大切さを改めて痛感し、新しい考え方の変化に常に敏感でなければいけないと思いました。

学んだことは？　「withコロナ」で出来ることが限られていている中、「コロナだからできない」ではなく「コロナだからこうしよう」とういう視点を持つことが大切なんだということです。
今夏はお祭りや花火大会の開催がなく、夏を謳歌することができなかった人が多数いました。私たちインターン生は市内某地域で行われたオンライン花火大会に参加させて頂きました。密を避ける工夫をしながら、地域のみなさんによる入念な準備がありイベントは成功を収めました。

当日、地域の人から「ありがとう」という声を多数頂き、人が協力し人のために行動することはとても重要なことで、コミュニティーが持つ力について考えさせられました。
コロナ禍でのインターン活動はいろんな制限がありましたが、この現状だから今まで考え感じることが出来なかったことを自ら考え経験することが出来たように思います。

最後に一言！　直接お会いした皆様、地域の皆様、私たちインターン生を温かく迎え入れ優しく接してくださり本当にありがとうございました。

〒247-0046　鎌倉市大船2-20-31 IWOビル3-A　TEL：0467-84-9713　jimukyoku@nagata-marina.com　nagatamarina.kamakura